



士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol. 28 No. 2127

二世紀への出発 原点に戻ろうロータリー

超我の奉仕。

百年を礎に原点に戻ってもう一度ロータリーを語ろう

2005~2006年度 RI会長

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー



百瀬達夫画

例会場/士別グランドホテル
 例会日/毎週月曜日 12:10~13:10
 事務所/士別グランドホテル
 TEL (0165) 23-1234

会長/汐川 泰晴
 副会長/織戸 俊二
 幹事/川原 一夫

士別河川防災ステーション (天塩川河川敷)

第2204回例会 2006年2月27日(月)

今日のプログラム ・夜間例会

■前回(2月20日)の記録■ ・普通例会 ・ゲスト卓話

司会 藤吉敏博会場監督
 斉唱 我等の生業
 本日の出席 出席率80.0% 会員65人中 出席者52人
 本日の欠席 阿達 勇、大野裕一郎、加藤 博、河原賢治、神田英一、坂野虎溪、柴田敏郎、田中義博、千葉繁夫、寺下隆通、鍋島 秀、福澤丹治、川原一夫

メイクアップ
 ビジター
 ゲスト 沼館初男氏 (士別農民連盟委員長)
 ニコニコBOX

累計215,000円

例会予定

2月のロータリー月間「世界理解月間」・ロータリー創立記念		世界ローターアクト週間	
2月6日(月)	普通例会・理事会	3月6日(月)	普通例会・理事会
2月13日(月)	普通例会	3月13日(月)	普通例会
2月20日(月)	普通例会 (2月23日ロータリー創立記念日)	3月20日(月)	普通例会
2月27日(月)	夜間例会	3月27日(月)	夜間例会 (士別ロータリー創立記念日例会)

■会務報告

汐川泰晴会長

トリノ冬季オリンピックも中盤に入り、一段と日本選手の活躍に熟の入った声援が送られておりますが、各競技種目の世界の壁は思いの外厚く、メダルには中々届かず苦戦を致している様でございます。

4年に1度の頂点を目指すこの大会、苦況を乗り越え万全の体調で残す競技を頑張りたいと思います。

道内出身の選手が表彰台に上がる姿を楽しみに、テレビを前にさらに応援を続けて参りたいと思います。

先般、15日土別神社社務所において、平成18年土別地区の交通安全祈願祭並びに土別地区交通安全協会会長表彰式のご案内を頂き出席して参りました。

昨年17年度の1年間の交通事故状況によりますと死亡者数は全国的に大幅に減少し、北海道では302人で85人の減となり道民の悲願でありました都道府県別の死者数ワーストワンの汚名を14年振りに返上することができ、交通安全運動の献身的な推進の努力が報われた事を評価され、土別警察署管内においても交通事故及び傷者数は前年より減少となり死亡者も6名から3名の半減と大きな成果を上げておりました。

また昨年の成果を受け2年連続全国交通事故死ワーストワン返上と交通事故死者数の6年連続減少を目指し、1年間の無事故を願っての祈願祭が行われました。

しかし依然として多くの交通事故が発生し、尊い生命が失われております。悲惨な事故には「あわない、おこさない」を今一度意識を新たに交通安全に努めて参りたいと思います。

これからも積雪や凍結による路面スリップなど道路状況が悪くなって参りますので、十分注意をされ安全運転でご活躍を頂きたいと願うところでございます。

■幹事報告

菊地 博 次年度幹事

1) 受信関係＝国際ロータリー第2500地区ロータリーアクト、第32回地区大会の仮登録案内(5月27日、28日、新富良野プリンスホテルで開催。土別国際交流協会から平成17年度第3回役員会の案内。土別ライオンズクラブからライオンズ広報「若獅子」第152号。

■会長エレクト研修セミナー・地区協議会開催案内

菊地 博 次年度幹事

2006年4月22日から23日まで紋別市で開催。22日に会長エレクト研修セミナー、23日に地区協議会本会議・同分科会。申し込み締め切りは3月10日。2

月27日に確認し、最終は3月6日の例会です。

出席義務委員長はクラブ奉仕、クラブ会報、親睦活動家族、会員増強、広報、ロータリー情報、資料保存IT、職業奉仕、社会奉仕、新世代プログラム、国際奉仕、ロータリー財団です。

■ゲスト卓話 「食の安全性・見直そう食のまち」

沼館初男氏(土別農民連盟委員長)

最初に輸入農産物に関するビデオを鑑賞。輸入農産物が薬品、農薬などにいかに冒されているかといった実態とその危険性を理解しました。

※卓話 私たちの組織では消費者協会の皆様と一緒に食の安全として地産地消に向けて運動を展開しています。少し古いビデオですが、消費者からは好評です。

今、ご覧いただいたように輸入農産物がどれだけ危険なものなのか、一部ではありますがおわかりいただけたかと思えます。私たちが横浜に行き、びっくりしました。ビデオと同じようにほとんどが野積み状態で、それがいつ入ってきたのかわからないような扱いもありました。

毎年、消費者の皆様から疑問点が出されまして、その中で一番多く出てくるのは「こんなに危険なものがなぜ日本に入ってくるのか」ということです。

今、ご覧いただいたように現地で生産する時は、日本よりややきつい農薬を使っています。日本で禁止されているものを使っているという実態もあります。



卓話を行う沼館氏

ポストハーベストという言葉があります。生産されてから日本に輸入されるまでの間に使う農薬のことです。これが非常にたくさん使われています。

特に多いのは防カビ剤、殺虫剤、それを使用しないと持たないというのが実態です。

ではなぜそれが日本で受け入れられるのか。

私たちの生産する農産物は厚生省の厳しい基準があり、今はすべての農産物に生産履歴を掲示する義務があります。外国でもそうなのですが、日本に来る間に使われる農薬が多くなります。チェックする機能も非常にずさんです。残留農薬の国際基準も日本の10倍も緩い。外国の圧力に負けているわけです。

私たちは消費者の皆様にご覧いただくだけでもわかっていただけて、値段は高いかもしれませんが、安全で安心な地元の農畜産物を食べていただきたいと運